

# 岡山畜産便り

## 2014 4



奈義町 鷹取 弘泰さん(右) (肉用牛)

### もくじ

〔技術のページ〕	・養豚技術研修会並びに第45回豚枝肉共励会を開催…………… 9
和牛の1ショット過剰排卵処理方法について	・蒜山ジャージーヨーグルトご当地グランプリ金賞受賞…………… 10
岡山県農林水産総合センター畜産研究所	
改良技術研究室…………… 1	〔お知らせ〕
〔家保のページ〕	岡山県で豚流行性下痢が発生しました！
「岡山家畜保健衛生所 家畜鑑定課」の業務紹介	岡山県農林水産部畜産課…………… 11
岡山家畜保健衛生所	岡山県畜産関係者名簿…………… 12
家畜病性鑑定課…………… 3	岡山県農林水産総合センター…………… 14
〔畜産現場の声〕	岡山県農業共済組合連合会…………… 15
肥育農家の将来を見据えて	全農岡山県本部畜産部…………… 16
奈義町 鷹取 弘泰…………… 5	おかやま酪農業協同組合…………… 17
〔共済フレッシュさんの声〕	一般社団法人 岡山県畜産協会…………… 18
峠田 大志…………… 6	岡山県畜産関係各種協議会…………… 19
〔ホットニュース〕	
・牧場体験ツアー開催…………… 7	
・酪農大学校が農場HACCPの推進農場に県内で初めて指定される！…………… 8	

## 取扱品目のあらまし

動物用ワクチン・血清類一切,獣医畜産用薬品全般

家畜・家禽の飼料添加剤各種,獣医畜産用器具機械類

衛生材料(ガーゼ・脱脂綿・繃帯・その他)

土壌関係検査測定器具・試薬

# 岡山県獣医畜産事業協同組合

岡山市北区下中野350-103 TEL 086-243-8057

FAX 086-243-8544

新商品

高濃度アミノ酸含有液体混合飼料

## フタバアミノリキッド

麹菌と飼料醗酵技術の融合により誕生した、  
全く新しい概念のリキッドタイプ飼料です。

- 低温熟成により活性が失われていない酵素を含有 (アミラーゼ、プロテアーゼ、リパーゼ他)
- アミノ酸を豊富に含有 (2230ug/g)
- 様々な給与体系に対応しやすい液体タイプ
- 期待できる効果 粗飼料の食い込み改善、消化吸収率改善、成長促進、増体、繁殖障害改善、  
子牛の免疫力向上、発育・健康改善
- 給与目安 飼料に対して0.1%～0.5%添加、あるいは100cc～200cc/頭
- 原材料名 豆乳、小麦粉、酒粕、糖蜜、麹、乳酸菌、ビール酵母、トレハロース
- 販売容量 2リットルペットボトル/20リットルボックス/その他規模に対応可

製造販売元 **フタバ飼料株式会社**  
www.futabashiryo.co.jp

〒709-0841  
岡山県岡山市東区瀬戸町万富1057-1  
TEL(086)953-0832 FAX(086)953-1870

# 和牛の1ショット過剰排卵処理方法について

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 改良技術研究室

## 1. 和牛生産と受精卵移植技術

近年、和牛生産において受精卵移植技術を活用して、牛群の改良や増産に取り組む農家が増えてきています。岡山県でも、移植による生産頭数は年々増加し、平成24年度には約500頭となり、子牛登記される頭数の約13%にまで増加しています(図1)。

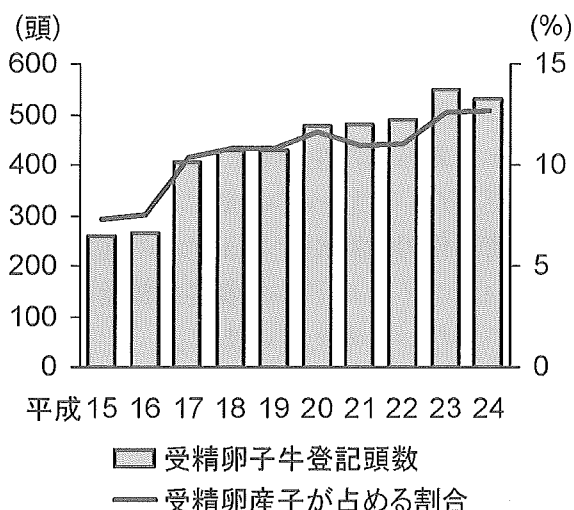


図1 本県の受精卵移植による和牛生産状況

また、生産頭数の増加と比例して、移植頭数も増加し、年間約1250頭で行われています。これに伴い、採卵頭数も年間約200頭まで増加し、今後も増加傾向の続くことが見込まれています。

## 2. 従来の過剰排卵処理方法と課題

このように採卵頭数が増加する中、作業者の負担となっているのが、採卵に欠かせない過剰排卵処理というホルモン剤の注射です。この処理を行うと、一度にたくさんの受精卵を採取することができますが、一般的な方法では、豚由来の卵胞刺激ホルモン(FSH)を1日2回、3日間連続で注射する必要があり、労力の負担と牛へのストレスの大きいことが問題となっています。

そこで、畜産研究所では、FSHの1回投与で簡易に過剰排卵処理を行う1ショット法を研究していますので、その概要を紹介いたします。

## 3. 畜産研究所での取り組み

### 1) 試験方法

試験には、当研究所で繋養している和牛繁殖雌牛8頭を用いました。基準となる発情を誘起し、黄体があることを確認して、発情後10～12日目から図2に示した方法で過剰排卵処理を行い、採卵成績を比較しました。従来法では、総量20AUのFSHを、1日2回、3日間で投与し、1ショット法では、同じ20AUのFSHを10mlの生理食塩水に融解して、処理開始日に全量投与しました。

また、今回の試験では、採卵成績向上が期待できる卵胞ウェーブの調節をするため、どちらの方法においても黄体確認時に膈内留置型黄体プロジェステロン製剤(CIDR)を挿入し、同時にエストロジェンを投与しました。そのため、1ショット法ではFSH投与と同時に、黄体退行作用のあるプロスタグランジンF2α(PG)の投与を行い、注射に行く回数を1回にしています。

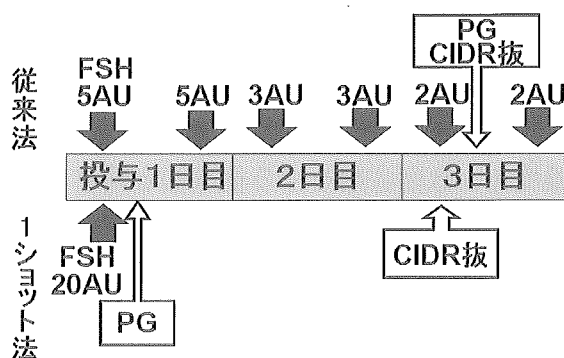


図2 過剰排卵処理方法

## 2) 採卵成績

従来法では、推定黄体数が28.7個、回収卵数が28.2個、正常卵数が15.2個でした。一方、1ショット法では、それぞれ22.9個、21.8個、15.0個となり、従来法と変わらない採卵成績が得られました(表1)。

	推定黄体数	回収卵数	正常卵数
従来法	28.7±12.4	28.2±12.9	15.2±11.3
1ショット法	22.9±10.4	21.8±12.0	15.0±10.7

(mean±SD)

表1 処理方法別の採卵成績

また、回収した正常卵の品質は、1ショット法ではAランクが75.0%、Bランクが12.5%、Cランクが12.5%で、従来法と同様の成績となっています(図3)。

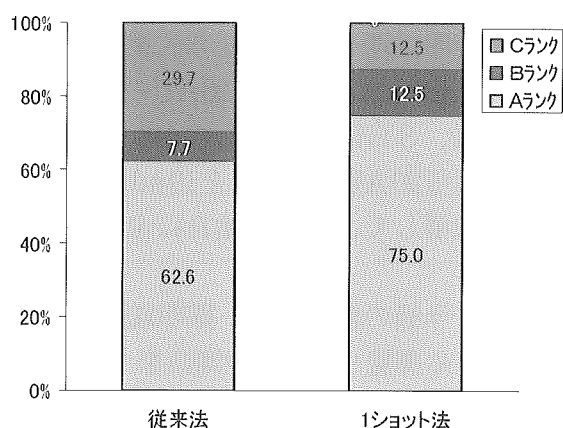


図3 処理方法別の正常卵の品質

こうしたことから、1ショット法は、和牛の過剰排卵処理をより簡易に行う方法として、有効と考えられます。

## 4. 1ショット法のポイント

1ショット法では、FSHを頸部皮下に注射して、ゆっくり吸収させることがポイントです。そうすることで、血液中のFSH濃度を、6回注射をする従来法と同じような状態にすることができ、1回の注射でも過剰排卵処理が可能になります。また、1ショット法では、1回でFSHを全量投与するので、注射液の量が従来法より多い10mlになっています。そのため、注射を

する際には、液が漏れないように注意が必要です。

さらに、CIDRの抜き忘れにも要注意です。FSHの投与から2日ほど間が空きますので、ついつい忘れがちです。注射が済んで安心していたら、CIDRを抜き忘れて発情が来なかった、ということにならないように気を付けて下さい。

## 5. おわりに

1ショット過剰排卵処理法は、簡易化につながる有効な方法で、農家の採卵でも、少しずつ取り組みが広がっています。これまで、受精卵移植技術を活用してみたいけれども、「処理が煩雑で面倒だ」、「大事な牛に何度も注射をするのは可愛そうだ」、とっておられた生産者にはぜひ活用していただきたいと思っています。今後は、更なる簡易化の検討やマニュアルの作成などを行い、フィールドへの着実な普及につなげていきたいと考えています。

過剰排卵処理の簡易化によって、和牛の受精卵移植がさらに普及し、和牛の生産振興につながることを期待しています。



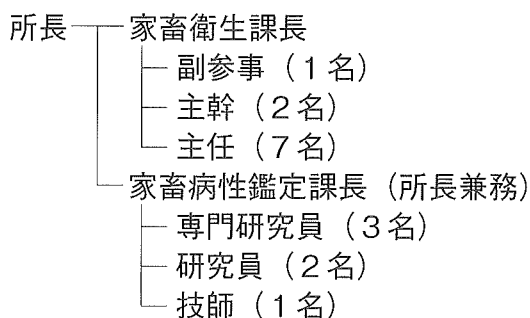
## 「岡山家畜保健衛生所 家畜病性鑑定課」の紹介

岡山家畜保健衛生所 家畜病性鑑定課

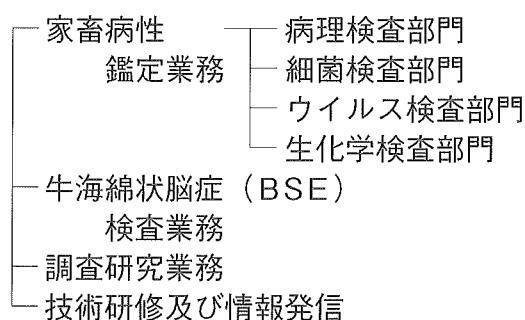
岡山家畜保健衛生所は、所長以下17名の職員が勤務しております。所内には家畜保健衛生課（職員11名）と家畜病性鑑定課（職員6名）の2課があり、家畜病性鑑定課は、県下全域を業務エリアとしています。

これまで当課にあった飼料・堆肥検査部門は、農林水産総合センター畜産研究所に移転し、平成26年4月から畜産研究所で飼料成分や堆肥成分の分析を行うこととなりました。

### 1 <職員構成>



### 2 業務の構成



#### (1) 家畜病性鑑定業務（家畜疾病診断）

県下5カ所の各家畜保健衛生所において確定診断が困難な家畜の病気や高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫などの家畜法定伝染病について、病理組織学的、細菌学的、ウイルス学的、生化学的な精密検査と疫学情報収集を実施し、迅速・的確な診断を行い、家畜伝染病の発生とまん延防止に努めています。

#### (2) 牛海綿状脳症（BSE）検査業務

BSEは、英国で1986年、日本で2001年9月に初めて報告されました。現在日本では、食肉の安心・安全確保のため、30ヶ月齢以上のと畜牛と病気や事故等で死亡した24ヶ月齢以上の牛についてBSE検査を実施しています。岡山県では家畜病性鑑定課において、死亡牛のBSE検査を行い、感染の有無などの清浄性維持に努めています。

#### (3) 調査研究業務

養鶏産業に大きな被害をもたらした高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）のモニタリング調査、牛飼養農家に流産、死産、奇形子牛などの被害をもたらすアカバネ病、アイノウイルス病、チュウザン病などの抗体及びウイルス分離検査による病気の流行予測調査を実施し、原因ウイルスの動きを注意深く監視し、病気が発生したときに迅速な対応ができるようにしています。また、岡山県では牛ボツリヌス症が毎年のように発生しているため、本症に関しての疫学的関連調査や迅速診断のための研究も行っています。

#### (4) 技術研修

当課では、各家保の若手職員を対象に、家畜疾病の診断技術の向上のため、年に4～5回研修会を実施しています。昨年度は、家伝法が改正され、ヨーネ病の診断基準が変更になったことから、診断方法に関する研修会を行ったほか、家保業務でも重要なELISA検査の基本と手技の実習を実施しました。

#### (5) 研究成果

平成25年度の研究成果としてとりまとめ、岡山県畜産関係業績発表会で報告した3演題について紹介します。



### ①ウイルス部門；岡山県の牛ウイルス性下痢（BVD）持続感染牛摘発状況と今後の課題

近年県下でBVDウイルス持続感染牛（PI牛）の摘発事例が散発しています。このため平成24年度からの診断予防技術向上対策事業により20農場131頭の育成牛抗体調査を実施したところ、陽性牛が3農場で確認され、陽性率は10.7%でした。このうちの1戸（A農場）で4頭、疫学関連農場で1頭のPI牛を摘発しました。また、発育不良により病性鑑定を実施したB農場でも3頭、過去2年間で計8頭のPI牛を摘発しました。摘発年齢については8日齢～4歳で家保の指導により淘汰しました。臨床症状は2頭の発育遅延のみでした。母牛の抗体保有状況により妊娠牛への同居感染でPI牛が産出されていることが確認されました。牛舎ごとの抗体保有状況調査ではPI牛を隔離すればウイルスは容易に拡散しないことが示唆されました。

BVDウイルスのまん延を防止するためには感染予防対策を関係者に普及啓発、これまでの病性鑑定による受動的な摘発から組織的かつ積極的な摘発・淘汰体制への変更が望まれます。

### ②細菌部門；牛飼養農場におけるマイコプラズマボビスの浸潤状況及び薬剤感受性

牛呼吸器症候群の主要な病原体の一つであるマイコプラズマボビス（Mbo）の牛飼養農場における浸潤状況について全県的に調査を行いました。調査戸数及び頭数は健康牛群20戸250頭、病性鑑定牛群11戸107頭、合計357頭です。鼻腔スワブを液体培地で培養後、遺伝子検査によるMbo特異的遺伝子の検出及び分離培養を実施しました。分離したMbo22株について薬剤感受性試験を行いました。

Mboの陽性率は健康牛群14%、病性鑑定群20%、計15%でした。両群に差はなく、Mboは病性鑑定牛群の呼吸器症状の主因ではないと推察しました。また、Mboの農場浸潤率は肉用牛50%、乳用牛29%、預託0%でした。分離株はチアンフェニコール、リンコマイシンに感受性で、エンロフロキサシンは耐性傾向でした。

Mbo陰性農場では、侵入時の被害防止

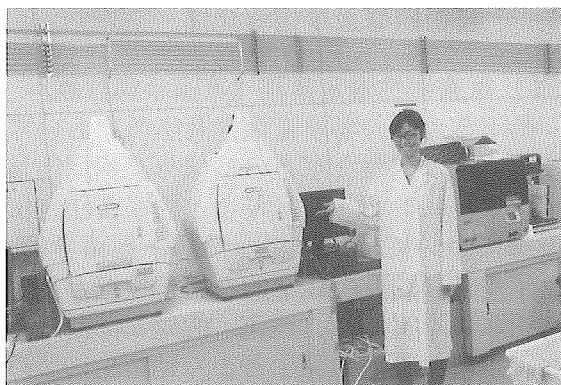
のため、導入牛検査等によるリスク管理が必要と考えられました。また、Mboに有効とされるエンロフロキサシンに対して耐性傾向が見られることから、第一選択薬を考慮し、耐性株の出現を防ぐことが重要です。

### ③病理部門；採卵鶏の大雛で発生した壊死性出血性肝炎

約25万羽を飼養する採卵鶏育雛農場で、平成25年5月及び6月に約100日齢大雛の死亡羽数が増加したため、両日発生した死亡鶏及び衰弱鶏合計8羽について病性鑑定を行いました。剖検所見は、いずれも肝臓が腫大し黄白色または赤褐色を呈し脆弱で、脾臓の腫大も散見されました。病理組織検査では、肝臓にび慢性斑状壊死と重度の出血を特徴とした壊死性出血性肝炎が全検体で認められ、8羽中1羽の肝臓に多数の核内封入体を形成していました。ウイルス検査では2羽から鶏アデノウイルス（FAV）遺伝子が検出されました。壊死性出血性肝炎等の肝病変を形成する要因のひとつとして不活化ワクチン接種が関与するとの報告がありますが、本症例も限られた期間に多種類の不活化ワクチンを接種しており、その2～3週後に集中して発生していたことから、これらが刺激となったことが推察されました。

### （6）最後に

このように、岡山家畜保健衛生所家畜病性鑑定課は県下の各家畜保健衛生所と連携しながら家畜保健衛生業務をバックアップしています。今後とも家畜病性鑑定業務を通じ、迅速な疾病診断や伝染病のまん延防止に尽力していきたいと思います。



遺伝子検査機器

## 〔畜産現場の声〕

# 肥育農家の将来を見据えて

奈義町 鷹取弘泰

私は昨年九月、勤めていた農協を退職し、実家の和牛肥育農家を継ぐ事を決心しました。

私の実家は、祖父の代から肉用牛の肥育を行っており、最初はホルスタインから始まり、F1を経て5年前から全頭黒毛和牛を飼養するようになりました。現在は両親と三人で黒毛和牛200頭ほどを飼養し、自身の担当の牛舎一棟分、約60頭ほどの黒毛和牛の肥育を行っています。

### ―就農のきっかけ―

実家を継ぐ事を決心したのは、父が病を患った時でした。それまで漠然としか家を継ぐ事は考えておらず、きっかけとタイミングが無いまま、実家以外では特に畜産業に触れることなく過ごしていました。家業を継ぎ、就農してからというもの、毎日が試行錯誤の連続です。

### ―新しい挑戦―

いざ就農してみて肥育農家という立場に立って将来を考えたとき、一つの大きな不安がありました。和牛繁殖農家の方の高齢化による肥育素牛供給の先行きが不安でならなかったのです。和牛繁殖農家の方々の平均年齢は70歳にも達するそうです。人間いつどうなるかわからないもので、5年10年先に肥育素牛が安定生産されてる保証はないと危機感を覚えました。そのような情勢の中で、一部でも自分で肥育素牛の生産を手がけ、一貫経営にシフトする事で、自分の力でなんとか状況をよくできないかと考え、和牛繁殖部門を始めることにしました。

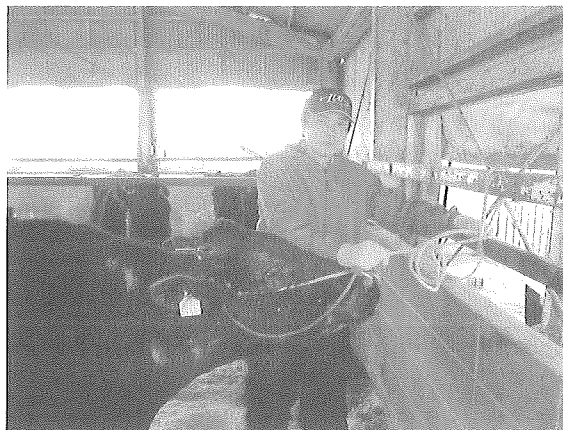
今年の1月から一般市で経産牛の導入を開始し、現在は5頭の繁殖雌牛を飼養しています。繁殖部門は初めて手がけるもので

すから、わからないことだらけで苦労しています。畜産協会が開催していた和牛入門講座に参加したり、知り合いの繁殖農家にアドバイスをしていただきながら、ようやく2頭受胎させる事が出来ました。

しばらくは繁殖部門が踏ん張りどころで、まずは母牛の繁殖管理という課題、それを超えても子牛の哺育という課題とやるべきことは山積みですが、ゆくゆくは繁殖雌牛を25頭程度まで増やし、1年1産を目標に素牛生産し、さらには地域の酪農家に協力していただき、ET産子による増頭も考えています。

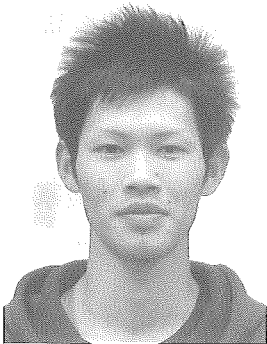
### ―これからの目標―

繁殖部門が軌道に乗れば、いつかは全国和牛共進会に出品できるような牛を作出したり、さらには自分の生産した子牛を肥育し、BMSNo.12の牛を出してみたいと考えています。やはり肥育をしていて良い結果を出したときには楽しいと感じますし、それが種付けから出荷まで自分で手がけた牛となると今以上に楽しいと感じる事が出来ると思います。まだまだ始めたばかりで気が遠くなるような先の長い話ですが、出来るところから一歩ずつ進んでいこうと思います。



## 〔共済フレッシュさんの声〕

西部基幹家畜診療所 峠田 大志



「光陰矢のごとし。」  
昨年の4月に、岡山県農業共済組合連合会に就職し西部基幹家畜診療所に配属されてから早くも1年が経ちました。出身は新見市千屋で、大自然の中でのびのび育ちました。大学の6年間は神奈川県にある日本大学で、部活、バイト、勉強(?)をしながら先輩、後輩、友達と楽しく過ごし、多くの人に出会い、様々なことを学びました。

大学時代に所属していた空手道部では、「先輩は絶対」の世界の中で4年間汗を流しました。昔に比べたらしきたりも随分緩んでいますが、ゆとり世代の私たちには十分すぎる厳しさでした。理屈も何も無い、問答無用の「押忍」を続けるうちに、次第に自分自身の甘さに気づき始めました。言い訳、諦め、責任転嫁…、自分が楽をするために無意識で行っていたことですが、今思えば恥ずかしい限りです。

大学時代に所属していた空手道部では、「先輩は絶対」の世界の中で4年間汗を流しました。昔に比べたらしきたりも随分緩んでいますが、ゆとり世代の私たちには十分すぎる厳しさでした。理屈も何も無い、問答無用の「押忍」を続けるうちに、次第に自分自身の甘さに気づき始めました。言い訳、諦め、責任転嫁…、自分が楽をするために無意識で行っていたことですが、今思えば恥ずかしい限りです。

そんなこんなで「精神力は誰にも負けない」と4月から大動物産業動物臨床獣医師として働き始めました。9月までは研修期間ということで、基本的には先輩の獣医師の診療車に同乗して農家を回っていましたが、その際、最初に苦戦したのは牛を捕まえることでした。牛を捕まえてロープで括らなければ、診察も何もありませんし、しっかり括ってもほどけたら意味がありません。また、力任せに引っ張ってもあの大きな体には到底かないません。しかし、先輩の獣医師は、簡単に牛を追い込んで(捕まえて)診察し、注射の前に頭部を保定したロープはまず解けません。付近の柱等を巧みに使い、しっかりした保定をさらっとやってのけます。そして、何の苦も無く頸

静脈に針を入れ注射を行います。やってみるといわれ、見様見真似でやるものの、保定は時間がかかる、血管には入らない、挙句の果てには牛が暴れてロープは緩む…最初からやり直し…と散々な結果になりました。その都度アドバイスをもらいますが、なかなか言われるようにはできず沢山迷惑をかけました(今もかけています)。最後に牛に心の中で「へたくそですいませんでした。必ず次に活かします」と伝え、農家を去ります。

仕事を辛いと思うことはありませんが、分からないことばかりでいつも頭をフル回転させているので、うっかり忘れものをしてしまいます。忘れないようにメモ帳に書き込んでいるのですが、手術衣、ロープ、イソジンスプレー等々をついつい置いたまま帰ってしまいます。そして次の日、その農家に行って、洗濯されて綺麗に畳まれた手術衣を「先生これ忘れてたよ」と渡された時、「この恩は絶対に返さなければ」「必ずや立派な臨床獣医師になるぞ」と改めて思いました。

10月からは担当農家を持たせてもらい、1人で回ることが多くなりました。牛は様々な症状(サイン)を私に訴えて来ますが、その中にある真の原因は何なのか、それを見つけることが次の課題でした。考えても分からずに先輩の獣医師に電話することもしばしばです。段取りも悪く、1頭治療が終わるまでにもものすごい時間がかかってしまうので、農家さんも牛も待ちくたびれてしまいます。それでも農家さんは、「大丈夫だよ」と言ってやさしく見守ってくれます。就職してから1年経ち、診療の流れというものには次第に慣れてきて、落ち着いて診療することができるようになってきました。一人前の臨床獣医師になれるよう、初心を忘れず、これからもより一層努力していきますので、何卒宜しく願いいたします。



## ホットニュース

# 牧場体験ツアー開催

(一社) 岡山県畜産協会 経営指導部

平成26年3月5日(水) 県南の牧場において牧場体験ツアーを開催しました。

平成25年度は、畜産と観光が結びついた新たな事業の展開による地域活性化を目指し、各関係機関による検討会議をもとに異業種交流会を開催してきましたが、今年度最後の取り組みとして実際にツアーを行うこととしました。

参加者は、新聞等で応募のあった一般消費者8名、参加費は3,000円としました。

8時30分に岡山駅西口に集合し、福光牧場へ向かいました。

### ○福光牧場において

9時30分に福光牧場へ到着し、早速作業に取りかかりました。

すでに発酵が終了しているミルクの中にレンネットを入れてかき回し、静かに30分間放置し、凝固させていきます。

その間、福光氏より、酪農家の生活や牛の生態等について、話があり、消費者からは、「酪農家の方は、いつ寝ていらっしゃるのですか?」「うちも農家なのですが、畜産業は今、どんな感じですか?」等の質問があがりました。

凝固が終了し、カード(固まり)とホエー(液体)の分離を行い、チーズの形作りをした後、塩漬けにしてチーズ作りは終了です。



その後、福光氏特製の釜で、ピザを焼いて試食しました。



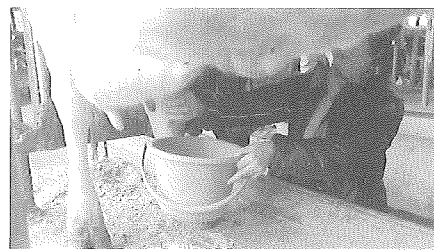
消費者からは、「やっぱり、手作りのチーズは市販のチーズと全然違って、とてもおいしい。」と話されました。

### ○安富牧場において

次に向かったのは、安富牧場です。

安富氏からは、乳牛の一生やエサについて、説明があり、その後、実際の乳搾り体験を行いました。

現在、酪農家はミルカーという器具を装着させて乳搾りを行っていること、実際に乳搾りを行う前は前搾り・乳の拭き取り・手の消毒が行われていること等、丁寧な説明が行われた後、消費者の体験が行われました。



消費者からは、「あたたかかった」「柔らかくて不思議な感触だった」など、楽しそうに話されました。

### ○おわりに

その後、農マル園芸に立ち寄り、解散となりましたが、アンケートからは「初めての事ばかりでとても楽しかった」「今度は、友人を誘って来たい」等の意見が多く、少人数のツアーではありましたが、濃密な1日となりました。

# 酪農大学校が農場HACCPの推進農場に 県内で初めて指定される！

(一社) 岡山県畜産協会 家畜衛生部

公益財団法人中国四国酪農大学校（以下「酪農大学校」）が、平成24年6月から岡山県畜産協会、日本食品安全検証機構、家保等支援組織と一体で取り組んできた農場HACCPについて、認証の一定の要件を満たした推進農場としての指定を県内で初めて3月28日に受けました。農場HACCPは、食品衛生分野のHACCP（国際的に推奨されている衛生管理手法）の畜産の生産現場版であります。近年、食の安全に対する関心が高まっていることから、生産から流通加工、そして消費段階まで一貫した衛生管理による安全な畜産物の供給が求められており、農水省においても、こういった状況を踏まえ、生産現場にも危害要因分析、必須管理点の考え方を取り入れ、畜産農家自らが危害要因や管理点を設定し、記録し、農場段階での危害要因をコントロールする、いわゆる農場HACCPを推進しています。

酪農大学校では、農林水産省の山野課長補佐（現 競馬監督課）、中央畜産会の宮島常務、日本食品安全検証機構の茶園理事長、県の若田畜産課長（現 農林水産総合センター）、おかやま酪農協の東山組合長外来賓多数の出席のもと、認証取得を目指して一丸となって取り組むことを確認するためのキックオフ宣言を行いスタートをきりました。以後、「消費者の求める安全で高品質な生乳を継続して生産するため、農場HACCPを取り入れるとともに、実践、指導できる酪農担い手の人材育成を通じ普及に貢献する」ことを衛生管理方針に定め、毎月1回、職員と支援員が、認証基準が求める要求事項の作成に取り組んできま

した。最初は取得することによってどんな効果があるのか、どれだけの作業量になるのか、全く雲をつかむような状況でした。子牛、育成牛、乾乳牛、搾乳牛の各段階での作業工程の作成でジャージー牛部門だけでも19工程にもなり、その一つ一つの作業工程について現状作業を明らかにしていくため、大変な作業ではありました。ある工程では、手順が職員によって異なったり、飲ませている湧水の検査期間が定められていなかったりなどの現状が明らかになりました。また、脱脂粉乳を購入した際、保管において古い袋を上にして積むなど無意識のうちにやっていることが安全性に配慮されていることも再認識させられました。全ての工程が明らかになったことで、今後の飼養管理の向上や安全性の確保につながるのではないかと考えています。現在は、各工程の危害要因の分析、そして予防対策を含めた一般衛生管理プログラムの作成に取りかかり、年度末の認証取得に向けて取り組んでいるところであります。



キックオフ宣言

(全国の状況 H26.3.31現在)

認証農場 31農場（牛5、豚18、鶏8）

推進農場 109農場（牛22、豚56、鶏31）

# 養豚技術研修会並びに第45回豚枝肉共励会を開催

岡山県養豚振興協会

平成25年2月20日、岡山県養豚振興協会（会長：荒嶋弥寿夫 事務局（一社）岡山県畜産協会）はテクノサポート岡山で平成25年度養豚経営技術向上研修会を開催しました。

今回の研修会には会員をはじめ、県行政、関係団体担当者約40名が参加し、県農林水産部畜産課食肉鶏卵班塩田主幹による「平成26年度養豚関連事業について」の講演に続き、千葉県旭市において、養豚飼養衛生管理コンサルタントとして活躍されている（株）ピグレッツ代表取締役 渡辺一夫先生を招き、「国際化の中で生き残る養豚経営の飼養管理衛生技術について」と題し講演いただきました。

渡辺先生からの国内屈指の養豚生産県での平素の診療・コンサルタントに基づいた豚飼養・衛生管理の最新技術と先進的取組の紹介は会員農家の知識と生産意欲の向上に大きくつながったと考えられ、終了後のアンケートでもよく理解できたと好評でした。



また、同振興協会では平成26年3月3日から3月5日の3日間、県営食肉地方卸売市場において第45回豚枝肉共励会を開催し、3月5日に審査並びに表彰式を行いました。

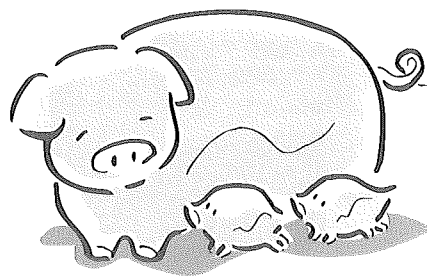
この共励会は岡山県養豚振興協会会員相互の交流と肉質の向上を目指して毎年10月と3月の2回開催しているもので、今回で45回を数えました。

今回の出品は会員8農場から30組60頭の出品があり、品種はLWDの三元交配種27組54頭、WLD三元交配種3組6頭で、出荷日齢は平均174日～185日、枝肉重量は平均74.5kg、上物率は76.8%と優れた成績でした。

審査は岡山県営食肉地方卸売市場の江本場長を初め5名の審査員で行われ、全般的に、腿張り、きめしまりが良く、肉付のバランスの整ったものが揃っている、との講評でした。

審査の結果、最優秀賞首席に岡山JA畜産（株）荒戸山SPF農場、最優秀賞2席に（有）協和養豚、最優秀賞3席に（有）MPFやなはらの出品豚がそれぞれ選ばれました。

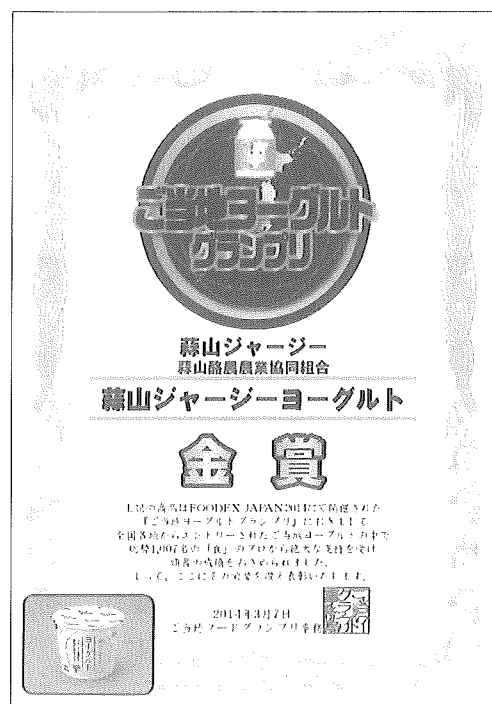
午後1時から行われたセリでは最優秀首席がkg当たり810円、全平均527.7円と高値で取引されました。



# 蒜山ジャージーヨーグルト ご当地グランプリ金賞受賞

2014年3月4日～7日まで、アジア最大級の「食」展示会FOODEX JAPAN2014で開催された「ご当地ヨーグルトグランプリ」で、総勢1007名の食のプロから絶大な支援を受け蒜山ジャージーヨーグルトが金賞を受賞しました。

昨年の「蒜山ジャージー牛乳プレミアム」の最高金賞に次ぐ受賞となりました。



## 生乳集荷の「安全・安心」な輸送業務に取り組んでおります。

株式会社 きびじ酪農運輸 代表取締役 青江 一三  
 本 社 〒719-1156 総社市門田70-1 TEL(0866)93-8790  
 阿曾事務所 〒719-1103 総社市西阿曾前田193-4  
 TEL(0866)99-8300 FAX(0866)99-8301



## 〔岡山県からのお知らせ〕

# 岡山県内で 豚流行性下痢が発生しました！

豚流行性下痢とは、

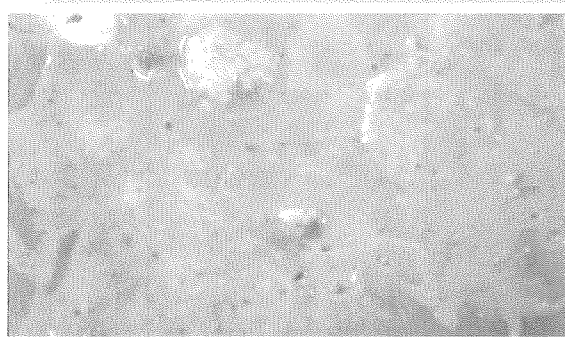
豚流行性下痢(Porcine Epidemic Diarrhea; 以下PED)は食欲不振と水様性下痢を主徴とする豚の急性伝染病で、家畜伝染病予防法により届出伝染病に指定されています。すべての日齢の豚が罹患しますが、特に若齢豚で症状が重篤化しやすく、哺乳豚での死亡率は時に100%に達します。症状は同じく届出伝染病に指定されている伝染性胃腸炎(Transmissible gastroenteritis;以下TGE)と酷似しており、診断には病性鑑定が不可欠。

①



PED発病哺乳豚

②



未消化固形物を含む黄色水様性下痢

※画像提供：動物衛生研究所

## 侵入防止とまん延防止のために次のポイントに気を付けましょう

- 農場・畜舎などへの出入り時は、車両、長靴、作業服などの消毒を徹底しましょう。  
また作業着、長靴は農場専用のものを設置しましょう。
- 関係者以外の農場への立ち入りは、極力控えましょう。  
また入場者等の記録を必ずとるようにしましょう。
- 発生国・地域に滞在していたためウイルスを伝播させる可能性がある人やものを農場に近づけないようにしましょう。  
また、従業員の方も含めて、発生地域への訪問・発生国への渡航は、できる限り控えましょう。
- まん延防止の基本は、早期発見です。  
「おかしいかな?」と思ったら、すぐに獣医師または最寄りの家畜保健衛生所に連絡しましょう。

	電話番号	緊急用電話番号
岡山家畜保健衛生所	086-724-3880	090-5377-5921
井笠家畜保健衛生所	0866-84-8221	090-5376-2120
高梁家畜保健衛生所	0866-22-2077	090-5376-0758
真庭家畜保健衛生所	0867-44-2231	090-5378-0962
津山家畜保健衛生所	0868-29-0040	090-5376-0158

岡山県畜産関係者名簿 (平成26年4月1日現在)

部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名		
畜産課 (20) 生産振興班	課長	中塚 陽二郎	岡山家保 家畜保健衛生課 (19)  事務	所長	江本 正		
	副課長	竹田 人士		課長	松長 清美		
	総括参事 (生産振興班長)	馬場 誠		副参事	遠藤 広行		
	副参事	斉藤 浩史		主幹	山内 章江		
	主幹	森藤 賢司		主幹	金岡 孝和		
	主幹	塩田 鉄朗		主任	錦織 拓美		
	主幹	内田 啓一		主任	大賀 美智恵		
	主幹	田中 健嗣		主任	藤原 裕士		
	主任	小田 亘		主任	佐藤 静子		
	衛生環境班	総括参事 (衛生環境班長)		山田 徹夫	主任	黒岩 恵	
		副参事		平田 祐介	主任	難波 かおり	
		主幹		西 淳子	主任	福田 新	
		主任		出石 節子	(欠員)		
		主任		いざさ 啓介			
	経営流通班	総括参事 (経営流通班長)		菱川 雅弘	病性鑑定課	課長 (所長兼務)	(江本 正)
		副参事		津寺 春良		専門研究員	澤田 勝志
		副参事		井上 信治		専門研究員	別所 理恵
		副参事		岡 修司		専門研究員	田原 鈴子
		主幹		池田 克美		研究員	橋田 明彦
		主任	三原 保江	研究員		澤井 紀子	
			技師	廣瀬 友理			
備前県民局 (4) (休)	総括副参事 (畜産班長)	川尻 鉄也	井笠家保 (10)	所長	河原 宏一		
	主幹	岡田 英樹		次長	多賀 伸夫		
	技師	吉田 由紀		副参事	橋本 尚美		
	技師	西村 祐枝		副参事	秦 守男		
	臨時事務職員 (代替)	藤原 建紀		主幹	清水 淳也		
備中県民局 (7) 農業振興課	総括副参事 (畜産第一班長)	藤原 努	高梁家保 (9)	主任	児子 友美		
	主幹	高取 健治		主任	田中 静香		
	主任	荒金 知宏		主任	紙谷 建志		
	主任	梯 洋介		技師	山口 葵		
	主任	朝倉 麻由子		技師	越智 春陽		
	総括副参事 (畜産第二班長)	中村 浩三					
美作県民局 (7)	農畜産物生産課長	広金 弘史		所長	田林 宏一		
	総括副参事 (畜産第一班長)	吉元 和明		次長	森 尚之		
	副参事	串田 晴彦		副参事	岡田 ひろみ		
	主任	片岡 まどか		副参事	守屋 吉英		
	技師	田中 康裕		主幹	武縄 勝浩		
	総括副参事 (畜産第二班長)	河原 貴裕		主幹	森分 哲彦		
	主幹	中山 裕貴		主幹	高見 剛		
				主幹	萱原 佳美		
		主任	横内 百合香				



部 署	職 名	氏 名	部 署	職 名	氏 名		
真庭家保 (10)	所長	平野 充生	改良技術研究室 (育種改良研究グループ)	室長 (特別企画専門員)	砂原 一彦		
	次長	早瀬 文繁		グループ長	片岡 博行		
	副参事	権代 将人		研究員	岡本 雄太		
	副参事	松馬 定子		研究員	小林 宙		
	主幹	坂部 吉彦		主幹	富田 康		
	主任	瀬尾 聡一		主幹	福井 康勝		
	主任	馬場 彩		主任	村田 和弘		
	主任	荒木 由季子		主任	高山 勲		
	技師	田中 恵		主事	定本 護		
	技師	堂之本 琢人		(養豚研究グループ)	グループ長	(改良技術研究室長兼務)	
津山家保 (15)	所長	加藤 信介	飼養技術研究室 (生産性向上研究グループ)	専門研究員	佐々木 真也		
	総括参事	大谷 啓介		主幹	湛増 美好		
	副参事	小阪 和正		主任	岡本 元正		
	副参事	澤田 健二		主事	福島 満志		
	副参事	牧野 俊英		主事	上田 利男		
	副参事	西川 真琴		(繁殖システムグループ)	グループ長	中原 仁	
	副参事	板坂 義昭		専門研究員	研究員	有安 則夫	
	主幹	平井 伸明		飼養技術研究室	室長 (特別企画専門員)	立川 優子	
	主任	定森 淑子		(生産性向上研究グループ)	グループ長	秋山 俊彦	
	主任	笹尾 浩史		研究員	研究員	滝本 英二	
	主任	高崎 緑		研究員	研究員	福島 成紀	
	技師	水上 智秋		主幹	主幹	金谷 健史	
	技師	光宗 仁美		主幹	主幹	山田 庄市	
	技師	加藤 真理子 (欠員)		主任	主任	安藤 芳宏	
	農林水産総合センター 〃普及連携部 総務課 (畜産研究所駐在)	次長		若田 茂	(飼養管理研究グループ)	グループ長 (特別研究員)	長尾 伸一郎
副参事		行森 美枝	研究員	田辺 裕司			
主幹		西村 江理子	技師	杉本 裕亮			
主幹		樋口 久男	主幹	定賀 和夫			
主幹		高元 則匡	主幹	服部 一洋			
主事		殊井 麗子	主任	有富 勝仁			
〃畜産研究所 (42) 経営技術研究室 (企画開発グループ) (環境研究グループ)		所長	小田 頼政	食肉市場 (10)		場長	平本 圭二
		副所長	栗木 隆吉			次長 (総務課長)	金関 鉄也
		室長 (特別企画専門員)	額田 和敬			副参事	小崎 敦史
		グループ長	木曾田 繁			主任	田中 英彦
	専門研究員	植田 幹隆	課長		山本 康廣		
	技師	森清 邦彦	主幹		黒岩 力也		
	グループ長	白石 誠	主任		佐野 通		
	専門研究員	脇本 進行	主幹		眞木 元		
	研究員	水木 剛	主任		難波 浩		
					主任	妹尾 直樹	
酪農大学校 (2)	校長	山田義和 (OB)	総務課 教務課	副校長	岸戸 武士		
	副校長	岸戸 武士		課長 (副校長兼務)	(岸戸 武士)		
	技師	金谷 真澄		技師			
	農政企画課	技師		高取 和弘			

## 農林水産総合センター

(平成26年4月1日現在)

所 属	職 名	氏 名
普及連携部普及推進課 (086-955-0274)	副 参 事	内 田 義 男

## 農業普及指導センター

備前県民局農林水産事業部

所 属	職 名	氏 名
岡山農業普及指導センター 産地指導第一班 (086-233-9850)	総括副参事(班長)	三 宅 清
東備農業普及指導センター 産地指導第二班 (0869-92-5178)	総括副参事(班長)	貞 政 和 男

備中県民局農林水産事業部

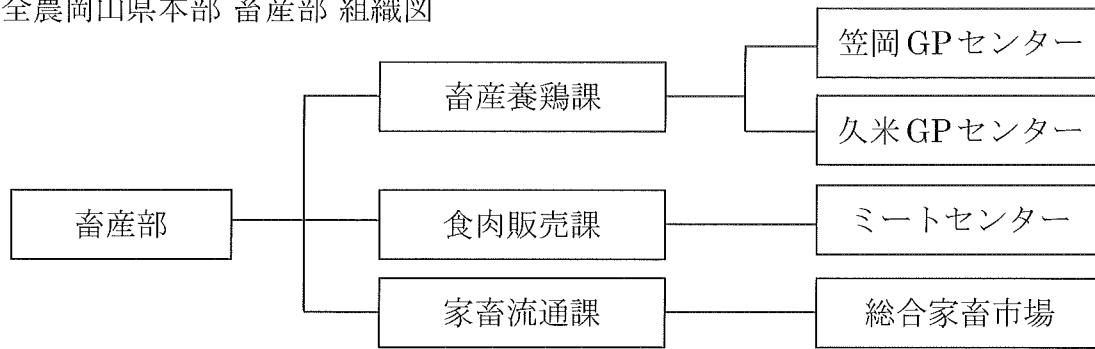
所 属	職 名	氏 名
倉敷農業普及指導センター 産地指導第二班 (086-434-7028)	総括副参事(班長)	正 吉 輝 彦
井笠農業普及指導センター 産地指導第一班 (0865-69-1653)	主 幹	石 川 和 人
高梁農業普及指導センター 産 地 指 導 班 (0866-21-2851)	主 任	宮 本 康 子
新見農業普及指導センター 産 地 指 導 班 (0867-72-9179)	副 参 事 主 任	川 口 泰 治 武 藤 多 佳 子

美作県民局農林水産事業部

所 属	職 名	氏 名
津山農業普及指導センター 産地指導第二班 (0868-23-1516)	主 幹	三 木 隆 司
真庭農業普及指導センター 産地指導第二班 (0867-44-7585)	主 任	馬 場 裕 介
勝英農業普及指導センター 産地指導第一班 (0868-73-4068)	副 参 事	大 谷 晴 美

家畜部 家畜課 TEL 086-224-5596 FAX 086-225-7064	部長	福原 肇	
	課長補佐	植月 義友	
	課長補佐	影山 毅	
	主幹(囑託)	日下 知加久	
	技師	西村 一 道	
	臨時	池山 歩 惟	
生産獣医療支援センター TEL 0867-22-1500 FAX 0867-22-1194	所長	河合 美 和	
	次長	豊田 幸 晴	
	副主幹	高市 直 登	
	主任	西川 達 也	
	技師	荒木 勇 介	
	技師	根木 慶 彦	
	技師	石田 和 子	
	技師	高岡 亜 沙子	
囑託	大賀 まりえ		
南部家畜診療所 TEL 086-943-6888 FAX 086-943-7703	所長	亀森 泰 之	
	主幹	村田 一 人	
	主任	久田 野 歩	
	技師	齋藤 愛	
	臨時	根岸 寿 子	
西部基幹家畜診療所 TEL 0865-64-4141 FAX 0865-64-2926	所長	山本 幹 男	
	次長	前原 健 成	
	主任	池山 亨	
	技師	石井 さやか	
	技師	峠田 大 志	
	囑託	岩原 幸 治	
西部家畜診療所 TEL 0866-22-2211 FAX 0866-22-0358	臨時	小野 好 恵	
	所長	金盛 隆 志	
	主幹	西山 篤	
	主査	大屋 卓 志	
	主査	江草 佳 彦	
西部家畜診療所新見支所	臨時	中笹 良 恵	
	副主幹	鴨井 敏 則	
	北部基幹家畜診療所 TEL 0868-26-1112 FAX 0868-26-6632	所長	山 護
		次長	西原 直
		主幹	正木 丈 博
		主幹	杉山 定
		副主幹	畦崎 正 典
		副主幹	大谷 香 里
		技師	森田 康 広
		技師	吉村 遥 子
技師		若槻 拓 司	
技師		上総 亜由 奈	
真庭家畜診療所 TEL 0867-44-2164 FAX 0867-44-5319	技師	渡邊 卓 彌	
	臨時	有元 裕 子	
	所長	福原 稔	
	主幹	本田 直 樹	
	主任	水戸 康 明	
蒜山家畜診療所 TEL 0867-66-2517 FAX 0867-66-4626	技師	富永 由 香	
	臨時	古谷 和 江	
	所長	藤井 多 加 治	
	主幹	犬間 一 郎	
	主幹	森本 高 輝	
	副主幹	田村 展 敏	
技師	松山 雄 喜		
臨時	宮本 美 佐 枝		

全農岡山県本部 畜産部 組織図



全農岡山県本部 畜産部 人事配置

平成 26 年 4 月 1 日現在

部・課	職名	氏名	備考
畜産部	部長	石原 正敬	
	次長	藤原 雅人	兼務
	次長	難波 智明	兼務
	次長	川崎 敦史	兼務
畜産養鶏課 (畜産 086-234-6884) (養鶏 086-234-6885)	課長	川崎 敦史	兼務
		暮地岩 有斗	
		石田 祥子	
		槇場 勇貴	
		原 千秋	
笠岡 GPセンター (0865-62-5131)	センター長	川崎 敦史	兼務
久米 GPセンター (0868-57-3911)	センター長	川崎 敦史	兼務
食肉販売課 (086-296-5088)	課長	藤原 雅人	兼務
	専任課長	太田 裕之	
	専任課長	堀田 文博	
	副審査役	佐藤 茂	
	調査役	大森 康弘	
		西野 芳仁	
		福島 美津子	
ミートセンター (086-296-5088)	センター長	西江 聡	
		岡本 欣也	
		藤原 哲	
		中村 倫政	
		木下 貴博	
家畜流通課 (0867-42-5333)	課長	柴田 憲志	
	副審査役	小椋 一広	
		中村 健	兼務
		植田 淑江	
総合家畜市場 (0867-42-5333)	市場長	難波 智明	兼務
		中村 健	兼務



平成26年度 一般社団法人岡山県畜産協会組織図  
(平成26年4月1日)

代表理事会長  
樋口義男

副会長  
東山基

専務理事  
柴田範彦

総務部 (TEL 086-221-0511) (FAX 086-234-6031)	
部長	本松 秀敏
調査役	小山 雅子
主事	竹内 裕美
嘱託職員	井戸本由美
経営指導部 (TEL 086-222-8575) (FAX 086-234-6031)	
部長	本松 秀敏 (兼務)
調査役	築山 伴文
主事	永原 睦恵
技師	池見 亮
家畜衛生部 (TEL 086-232-8442) (FAX 086-234-6031)	
部長	大塚 武宣
審議役	貝原 裕彰
嘱託職員	西林 由子
参与	高山 介作
参与	中山 敏之
家畜衛生管理センター (TEL 0867-27-3101) (FAX 0867-27-3102)	
臨時職員	佐々木 太
臨時職員	岡田 保
生乳検査センター (TEL 0868-54-7366) (FAX 0868-54-7368)	
所長	岡田 耕平
審議役	宇谷 修
調査役	中塚 智子
嘱託職員	村上 恭子
嘱託職員	本田 正司
嘱託職員	植木 美穂
臨時職員	安藤 智子
価格安定部 (TEL 086-234-5981) (FAX 086-223-4755)	
部長	西家 純一
嘱託職員	和田 直美
参与	本荘 司郎
参与	米戸 利憲



## 岡山県畜産関係各種協議会名簿一覧

(平成26年4月1日現在)

名 称	会 長	事 務 局
岡山県産食肉地産地消推進会議	岡山県農林水産部長	岡山県畜産課
岡山県家畜人工授精師協会	大森 進	岡山県畜産課
岡山県酪農乳業協会	東山 基	おかやま酪農業協同組合
岡山県産牛肉銘柄推進協議会	本松 允之	全農岡山県本部畜産部
岡山県産豚肉消費促進協議会	本松 允之	全農岡山県本部畜産部
岡山県養鶏協会	安原 健仁	烏城養鶏農業協同組合
岡山県ふ卵協会	山上 恭宏	農林水産総合センター 畜産研究所
岡山県装削蹄師会	平井 計行	岡山県農業共済組合連合会
岡山県養蜂組合連合会	吉村 信映	鈴木養蜂場
岡山県和牛子牛資質向上対策協議会	石原 正敬	岡山県畜産協会
岡山県畜産経営総合支援協議会	石原 正敬	岡山県畜産協会
岡山県馬事畜産振興協議会	樋口 義男	岡山県畜産協会
岡山県養豚振興協会	荒嶋弥寿夫	岡山県畜産協会
岡山県コントラクター協議会	石原 聖康	岡山県畜産協会

# FOSS

## ■安全性評価用ラインナップ

食品の安全性への関心はますます高まっています。米国チャーム社の生乳の分析ソリューションは特定の抗生物質の残留から、幅広い抗菌性物質の残留、または高感度の生乳中のアフラトキシンの分析で世界中で幅広く使用されています。

### チャームROSAテスト(生乳用)

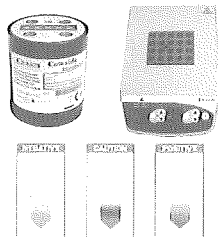
ベータラクタムキット  
テトラサイクリンキット  
キノロンキット  
サルファキット  
アフラトキシニンキット他

### チャームROSA-Mテスト(マイコトキシン用)

アフラトキシニンB<sub>1</sub>/B<sub>2</sub>  
DON・ゼアラレノン  
フモニシン  
オクラトキシニン他

### ブルーイエローテスト/カウサイドテスト

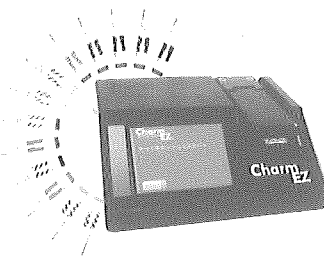
手軽なバイオアッセイキットは生乳用ROSAシリーズより幅広い阻害剤を検出します。



### NEW Charm EZ-M

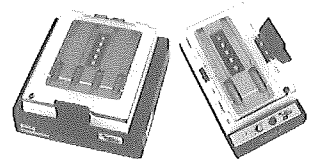
米国Charm社のイムノクロ的システムに新シリーズ登場。インキュベーターとリーダーが一体化。読み取りモードはカラータグが自動で選択します。

### Charm EZ



### ROSAリーダー

### ROSAインキュベーター

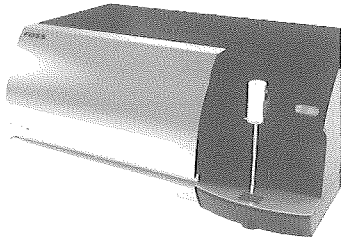


## ■その他FOSS製品ラインナップ

乳・乳製品の成分分析のスタンダード ミルコスキャンをはじめ、化学分析の安全な自動化を可能にするFOSSのソリューションは生産から製造まで成分品質の管理に幅広くご活用頂けます。

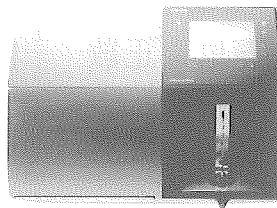
### ミルコスキャンFT1

液体分析の専用機。乳製品をはじめ豆乳の分析が可能。

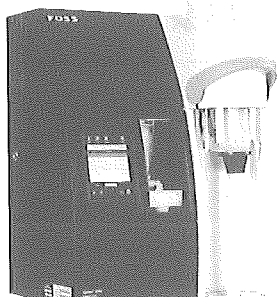


### ミルコスキャンマイナー

生乳・牛乳分析専用の小型機



### タンパク質分析 ケルテックシステム



### 食物繊維分析 ファイバーテック



## フォス・ジャパン株式会社

### ○東京本社

〒135-0016 東京都江東区東陽2-4-14

三井ウッディビル 1階

TEL03-5665-3821 FAX03-5665-3826

### ○札幌営業所

TEL011-518-1831 FAX011-518-1833

### ○九州営業所

TEL096-292-8681 FAX096-292-8682

E-mail: info@foss.co.jp

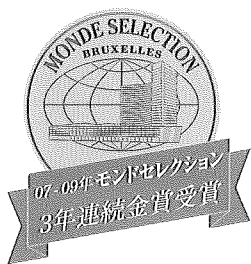
URL: www.foss.co.jp

Dedicated Analytical Solutions

OHAYO

生乳のおいしさ、ぎゅっと濃縮

# オハヨー 特濃4.4ミルク



オハヨー乳業の「特濃4.4ミルク」は、食品の国際的な品評会である“モンドセレクション”において、07-09年の3年連続で金賞を受賞。さらに、品質の高さを称える「インターナショナル・ハイクオリティ・トロフィー」も受賞しました。



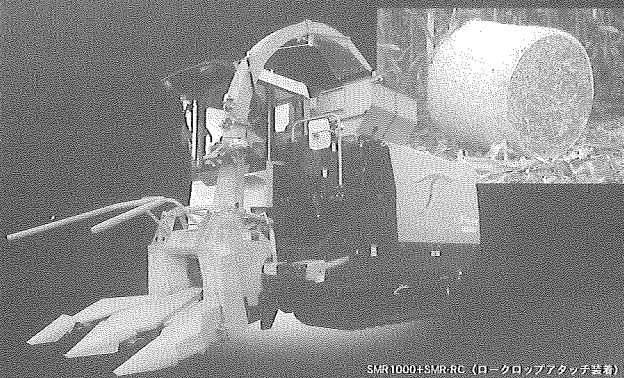
www.ohayo-milk.co.jp

オハヨー乳業株式会社

## 汎用型飼料収穫機

SMR1000

細断型で高密度に梱包し、  
高品質で長期保存に優れたサイレージづくり。



SMR1000+SMR-RC (ロークロップアタッチ装置)

先端アタッチの交換により、多様な飼料作物に対応

トウモロコシ

飼料イネ

干乾牧草

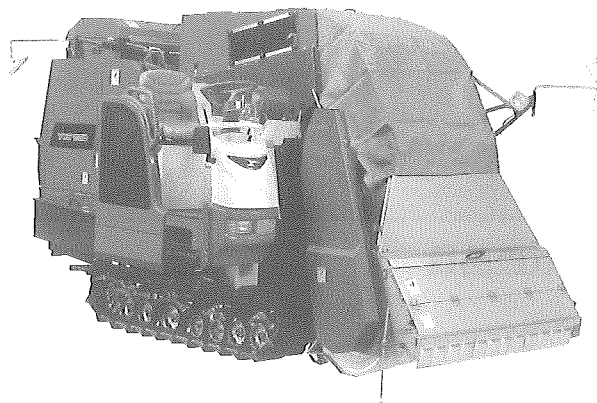


ロークロップアタッチ

リールヘッドアタッチ

ピックアップアタッチ

## ヤンマー飼料 コンバインベアラ YWH1500



ヤンマーアグリジャパン株式会社

岡山推進部 岡山県倉敷市亀山622

TEL086-428-5153

いつも「行く」からこそ  
見えてくる。



**オリオンルートプログラム**

ORION ルートプログラマーは、日々全国の酪農家の皆さまの下に足を運び、機器の点検を始めとした経営向上のサポートをしています。

- ① 機器の点検サービスの提供
- ② 乳質改善のお手伝いサービス
- ③ 新しい技術情報の提供サービス



**中国オリオン株式会社**

岡山本社 〒702-8022 岡山市南区福成2-14-23 TEL.086-263-1221  
営業所：岡山・津山・広島・上下・鳥取・出雲・小郡・大阪

**岸化学グループ**



**株式会社 正和**

代表取締役 岸 小三郎

岡山本社 〒712-8055 岡山県倉敷市南畝1丁目13番1号

TEL 086 (450) 3807  
FAX 086 (450) 4008

広島事業所 〒738-0513 広島県佐伯区湯来町大字伏谷字今山137番58

TEL 0829 (40) 5177  
FAX 0829 (40) 5178

福山事業所 〒729-3102 広島県福山市新市町相方1089-19

TEL 0847 (54) 2007  
FAX 0847 (54) 2008

鳥取事業所 〒680-0906 鳥取県鳥取市港町51番地

TEL 0857 (50) 1736  
FAX 0857 (50) 1738

津山事業所 〒708-1544 岡山県久米郡美咲町周佐1377-4

TEL 0868 (62) 1232  
FAX 0868 (62) 1233

**取扱品目**

死亡牛・死亡豚他の処理

有機性汚泥

廃食油

動植物性残渣

医療廃棄物



# 高知競馬開催案内

地方競馬の収益金の一部は国内の畜産振興に役立てられています。

5 月				6 月			
開催日	備考	開催日	備考	開催日	備考	開催日	備考
1 木		17 土	○ ナイター	1 日	○ ナイター	17 火	○ ナイター
2 金		18 日	○ ナイター	2 月		18 水	
3 土		19 月		3 火		19 木	
4 日	○ ナイター	20 火		4 水		20 金	
5 月	○ ナイター	21 水		5 木		21 土	
6 火	○ ナイター	22 木		6 金		22 日	
7 水		23 金		7 土	○ ナイター	23 月	
8 木		24 土	○ ナイター	8 日	○ ナイター	24 火	
9 金		25 日	○ ナイター	9 月		25 水	
10 土		26 月		10 火		26 木	
11 日		27 火		11 水		27 金	
12 月		28 水		12 木		28 土	○ ナイター
13 火		29 木		13 金		29 日	○ ナイター
14 水		30 金		14 土	○ ナイター	30 月	
15 木		31 土	○ ナイター	15 日	○ ナイター		
16 金		ナイター(15:30~20:50)		16 月		ナイター(15:30~20:50)	

## トピックス

岡山県馬事畜産振興協議会（事務局 岡山県畜産協会）は、平成26年3月8日（土）に高知競馬場において、「岡山県ももたろう特別」競争の第2回目を開催し、協議会員9名が参加しました。レースは、第5競争、サラブレッド系3才で、ターファシズンズ号（馬主 小菅誠）が勝利し、馬主や騎手の皆さんに、おかやま和牛肉を贈呈しました。



## あとがき

春らんまんの季節となった。職場の異動も終わり、新しい執行体制のもとで平成26年度が本格的にスタートした。本年度、畜産便りも新しい企画として、県外で活躍されている人や県内の高校、大学で畜産に関わる人の声を取り上げる外、経営分析や飼料米などの強化された農業政策についても特集を予定している。畜産を取り巻く環境は、担い手の不足、配合飼料価格の高騰、消費税の引き上げ、日豪EPAの合意による牛肉関税の引き下げ、TPPの行方など、先行不透明ではあるが、本県の畜産が県民の食を担っているという重要性を肝に命じ、生産現場に活かせる新技術や事例の紹介、流通・消費関係者が畜産に求める話題など、関係者の皆様に少しでも役立つ情報誌にしていきたいと考えている。(N・S)

## 岡山畜産便り 4月号(春季号)

第65巻第3号（通巻650号）  
平成26年4月25日発行  
定価250円（消費税・送料含）

発行人 樋口義男 編集人 柴田範彦  
発行所 一般社団法人 岡山県畜産協会  
〒700-0826 岡山市北区磨屋町9-18 岡山県農業会館5階  
TEL 086-222-8575 FAX 086-234-6031  
印刷所 岡山県農協印刷株式会社



動物用医薬品  
総合商社

# MPアグロ株式会社

## 取扱品目

動物用医薬品、医薬品、飼料添加物、混合飼料、  
動物用機器・機材、土壌検査器具・機材 他畜産関連商品

## 事業所一覧

本社	〒061-1274 北海道北広島市大曲工業団地6丁目2番地13	TEL 011-376-3860	FAX 011-376-3450
岡山オフィス	〒700-0822 岡山県岡山市北区表町3丁目5番1号	TEL 086-224-1811	FAX 086-224-1819
AHSC西日本	〒703-8256 岡山県岡山市中区浜1丁目10番5号	TEL 086-270-9510	FAX 086-270-8371
御津物流センター	〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1	TEL 0867-24-4816	FAX 0867-24-4882

## 【中国営業部】

岡山支店	〒709-2122 岡山県岡山市北区御津吉尾1番地1	TEL 0867-24-4880	FAX 0867-24-4889	
尾道支店	広島支店	山口支店	鳥取支店	島根支店

【四国営業部】高松支店 徳島支店 松山支店 宇和島支店

【近畿営業部】京都支店 大阪支店 和田山支店 明石支店

【北海道営業部】札幌支店 函館支店 旭川支店 帯広支店 北見支店 釧路支店 東京支店

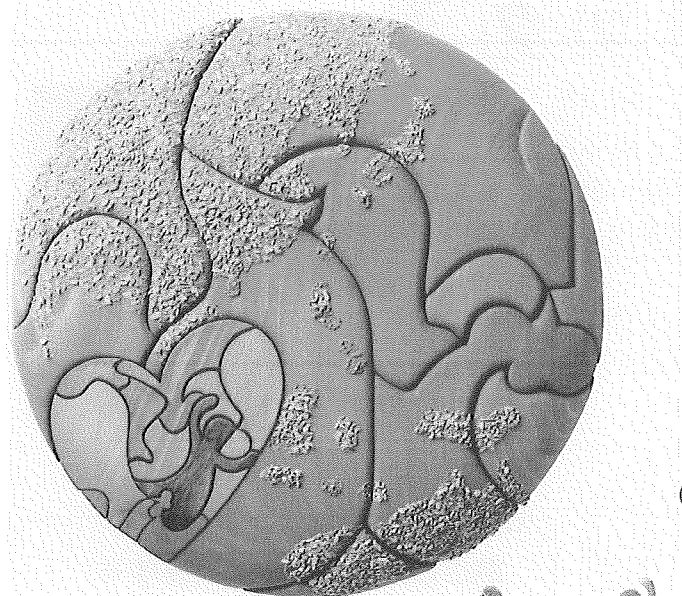
【東北営業部】青森支店 八戸支店 秋田支店 盛岡支店 一関支店 山形支店 仙台支店

【北九州営業部】福岡第一支店 福岡第二支店 熊本支店

【南九州営業部】宮崎支店 鹿児島支店 鹿屋支店

【食品営業部】福岡食品支店 宮崎食品支店 鳥栖食品支店 唐津食品支店

※AHSCはアニマルヘルスサポートセンターの略称です



生命をのせて回る地球に、潤い豊かな未来を届けたい。

# ASCO

## 株式会社 アスコ

<http://www.asco.sala.jp>

国内広域展開の動物用医薬品ディーラー  
人と動物の健やかな共生環境づくりに貢献します

## 本社

〒441-8021  
愛知県豊橋市白河町100番地  
TEL 0532-34-3821  
FAX 0532-33-3611

## 営業所 所在地

- ・東北支店  
仙台、古川、福島
- ・関東支店  
児玉、前橋、松本、旭、茨城、栃木
- ・C A支店  
大阪、京都、名古屋、東京、大宮
- ・中部支店  
豊橋、安城、浜松、沼津、岐阜
- ・中国支店  
広島、福山、山口、岡山、米子

岡山畜産だより  
平成二十六年四月号(春季号)  
(第六十五巻第3号通巻六五〇号)

平成26年4月25日発行

岡山市北区磨屋町九十八 岡山県農業会館  
発行所 岡山県畜産協会

定価 一部 二五〇円(送料共)  
年間 一五〇〇円(送料共)